

G&T パーフェクト・ポリッシング・システム

楽に・素早く・キレイに仕上がる

G&T Perfect Polishing System



RR パッド+RING バフ

そして、本格的水性コンパウンド

リアルカットが組み合わせれば・・・

新しい作業感覚の幕開けです!

基本作業工程

作業の基本的な考え方として重要なことは、必要最小限の研磨で出来るだけ塗膜の厚みを残し、クリアー本来の光沢を引き出すことです。

ウールバフは、角が丸く回り込んだ R タイプもお好みでお使い下さい。(裏面カタログ参照)

パーフェクト仕上げ：1・2・3・4・5
スピード仕上げ A：1・3・4・5
スピード仕上げ B：2・4・5

作業をはじめる前に・・・

バフの掃除

作業を始める前には、必ずバフを掃除して下さい。研磨剤が乾いてこびり付いていると不要な研磨傷が入る原因になります。



ウールバフはトルネードエアガンでエアブロー！ スポンジバフはポリッシャーを回転させながら濡れタオルを押し当てれば、簡単に掃除出来ます。

コンパウンドをなじませる。

コンパウンドの付け方も重要なポイントです。基本的には、バフに付けた方が垂れる心配が無く、作業し易いです。

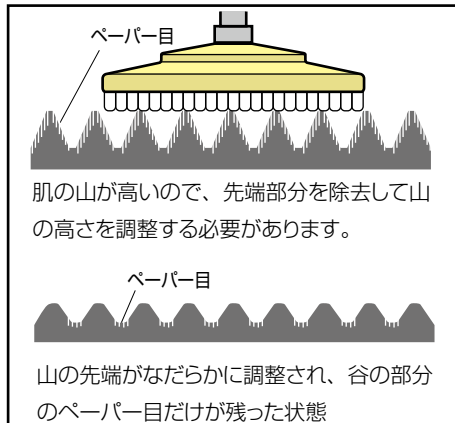


親指の爪位の量を、2,3箇所に分けて付け、指で軽く馴染ませて下さい。最初にやや多めに付け、何度も補充しないで磨くのが研磨ムラを防ぐコツです。最初は軽い力で薄く均等に延ばし、その後やや加圧して研磨作業に入ります。塗面の曇りが取れて乾いた研磨カスが出てきたら作業終了です。

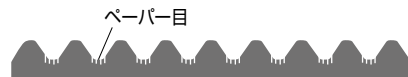
図解 一口マニュアル より良い仕上がりのために・・・



オーロラマークが出た例



肌の山が高いので、先端部分を除去して山の高さを調整する必要があります。



山の先端がなだらかに調整され、谷の部分のペーパー目だけが残った状態

1

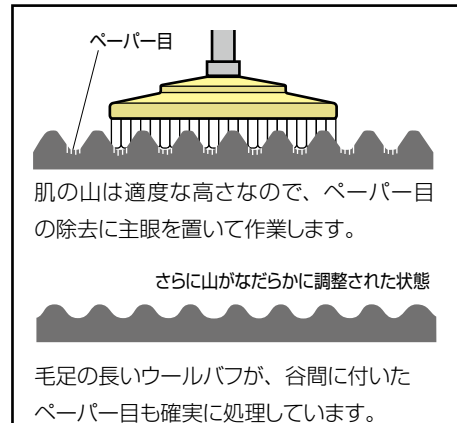
肌調整(大)・ペーパー目除去

バフの選択：A-4 (A-6) (A-8)
コンパウンドの選択：A (S)

●作業のポイント

肌調整が必要で、吹き肌の山が高い時は、A-4 と A との組み合わせで、作業図のように、山の先端部分を調整します。硬い塗膜など、クリアーの種類によっては S が効果的です。

肌の状態に応じて、A-6、A-8 など毛足の長いタイプも有効です。毛足が長いほど緩やかに肌調整ができます。肌の凹凸を処理するには、短い毛足でダレクに研磨出来る A-4 が最適ですが、ペーパー目の処理に限定すると凹凸の隅々まで毛足が届く A-12 や A-8 などが効率が良い場合があります。基本的には毛足が短いほうが研削力が大きく、毛足が長いほうが研磨熱が発生しにくく、仕上がりが良くなります。肌の状態に応じてバフを使い分けることでトータルの時間短縮と仕上がりの向上に繋がります。



肌の山は適度な高さなので、ペーパー目の除去に主眼を置いて作業します。

さらに山がなだらかに調整された状態



毛足の長いウールバフが、谷間に付いたペーパー目も確実に処理しています。

2

肌調整(小)・ペーパー目除去

バフの選択：A-12 (A-8) (HARD)
コンパウンドの選択：A (B)

●作業のポイント

肌調整の必要があまりない場合は(バフレックス等で調整済みの場合も)毛足の長い A-12、A-8 が、ペーパー目の処理能力と仕上がりを両立させる上で最適です。

基本的に A との組み合わせが作業性に優れますが、塗膜の状態やペーパー目の番手によっては、B が有効です。また、①の工程の続きの場合は、B との組み合わせが最適です。

状況に応じて、A, B のコンパウンドを使い分けることが重要です。

ウールの毛足を活用して、肌の谷間の部分をしっかりと磨くことが、この工程のポイントです。

肌調整が極小の場合や、スポンジ派の方には、研削力のある HARD スポンジがお勧めです。

まず、オーロラマークの原因をよく理解しましょう!

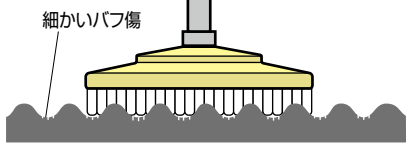
オーロラマークとは、一定方向に付いたバフ傷が周辺との光の反射率の違いで浮かび上がって見える現象です。同じ方向ばかり磨いたり、バフ角で部分的に深い傷を入れてしまうと、その部分が回りと違う透明度になり、オーロラが発生するのです。

バランス良くポリッシャーを持つと肩の力が抜けて作業もラクラク!

まず、何と言ってもポリッシャーをバランス良く持つことが作業効率アップの早道です。RR パッドと RING バフを装着すれば、ハンドルとグリップの端を持ち




ロックボタンを活用して指先に力を入れないよう

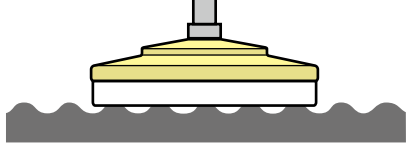


細かいバフ傷


ペーパー目は処理され、肌も整っており僅かにバフ傷が残った状態です。




谷間部分もしっかり研磨され、ムラが無く透明度の高い光沢が得られます。




経時変化後の戻りとオーロラ防止の為表面を更に研磨しておきます。



誤魔化しのない、クリアー本来の光沢を最大限引き出せたら完了です。



バフ目、オーロラのない塗膜をコーティングで保護します。



コーティング層

納車準備中の拭き傷を防止し、安心して納車に備えることが出来ます。

3 バフ目処理・仕上げ

バフの選択：FINAL (A-12) (HARD)
コンパウンドの選択：B (C)

●作業のポイント

①または②の工程で残ったバフ目を処理します。この工程で仕上げるつもりで FINAL が A-12 または HARD で丁寧に磨きます。コンパウンドの選択は、原則として前の工程で A なら B、B なら C を選択します。この工程で、**納車可能なレベルまで仕上げます。**

FINAL (A12) は、毛足が長くクッション効果が高い為、スポンジバフよりも研磨熱が上がりにくいのでこの工程に最適です。

4 光沢調整・仕上げ

バフの選択：C
コンパウンドの選択：C

●作業のポイント

塗膜表面を、マイクロレベルで、より平滑化することにより、磨き艶を安定させます。耐擦傷性クリアーを筆頭に、クリアーの種類や状態によって、磨き戻りが気になる場合があります。

③の工程で仕上げた後、エアブローや自然放置で塗膜を一旦冷ましてから④の工程を行うことにより、**経時変化によるオーロラの発生を防止する効果**があります。濃色車には、特に重要な工程です。

5 塗膜保護・コーティング

バフの選択：B
コンパウンドの選択：POLY シールド

●作業のポイント

仕上がった塗装面を一定期間保護するための工程です。

ノンシリコンの樹脂コーティング剤なのでクリアー自体の艶を生かした、自然な光沢と深みが得られます。

納車時の洗車や、保管時の拭き傷を防止することが主な目的です。

バフに適量を付けて薄く塗り延ばすだけで OK です。

バフはコンパウンド用と併用しないで専用の物を用意して下さい。

に持つだけで楽にバランスを取ることが出来ます。肩の力が抜け、長時間の作業も苦になりません。その状態が塗膜にも一番優しい状態なのです。

バフ目・オーロラの出にくいバフの当て方、動かし方!

RR パッドと RING バフの組み合わせは、図のように平らに塗面に置いた状態で無理に力を掛けずに研削力が充分発揮されるように設計してあります。出来るだけバフ角を立てず、平らにバフを当てた状態で、ゆっくり左右、上下と方向が偏らないように動かします。



通常の状態



縁に力をかけた状態

大きな面はブロックに区切って磨きます。

耐擦傷性クリアーもなんのその磨き戻りの出にくいマル秘テクニック!

せっかくバッチリ磨けたと思ったのに・・・数時間後見ると・・・何か変・・・クリアーによってはショックなくらい戻りが出る場合があります。耐擦傷性クリアーは、ほとんどこの部類です。**一番のポイントは研磨時の摩擦熱!** 熱を掛け過ぎるとクリアーが伸び、ペーパー目やバフが目立たなくなり勘違いするのです。残念ながらウルトラ C はありません。**研磨熱を抑えながら磨き、工程ごとに塗膜を冷まして次の作業へ。** エアブローや濡れたクロスなんかでも有効です。RR パッドと RING バフの組み合わせは、いかに発熱を抑えて磨くかを追求したシステムで毛足の長い A-12、A-8、FINAL との組み合わせは特に有効です。

GREEN バフ・HARD バフを活用すると・・・こんな作業で大活躍!

水垢や WAX の付いた車や洗車傷が気になる車・・・汚れた塗膜を磨くのは意外と大変です。ウールは使いたくないけど、スポンジじゃ切れないし・・・スポンジだと絡んで大変。

GREEN バフなら悩み解決! 研磨剤入りの特殊スポンジが、少量のコンパウンドや洗剤だけでもサクサク汚れを落とします。**バフに付いた汚れは、濡れ雑巾を押し当てただけで簡単に取れます。** 使用前にも濡れ雑巾を押し当ててウエット状態で使うのがポイントです。

ウールは使いたくないけど、スポンジじゃ切れないし・・・そんなスポンジ派の方に朗報!
HARD バフは、丈夫なウレタンの土台に硬質スポンジを組み合わせた、至上最強のスポンジバフなのです。まずは切れ味をお試しあれ!

最先端の磨きはポリッシングパッドがモノを言う

ダブルアール

RR ポリッシングパッド

ポリッシャーのパワーを研磨面に効率良く伝える・・・その根幹の部分がポリッシングパッドです。バフとコンパウンドの性能を生かすも殺すもパッド次第なのです。サスペンションのダンパーのように、パワーの伝達と振動の吸収を同時に行うことがRRパッドの開発コンセプトでした・・・

専用に開発されたクッション素材が本物の証明です

RING バフ・ウール・スポンジ

様々な用途のために生産されたスポンジを流用してバフを作るのが一般的な製造方法でした。最高の仕上がりとし研削性を同時に求めた結果、クッション素材やリング形状を一から企画開発する必要があったのです・・・

妥協のない製品作り・・・RINGバフが本物である証しです。縁がテーパ状のAタイプと縁に生地が回り込んだARタイプがあります。

驚きの作業性！全ては組み合わせの妙・・・

RR パッド+RING バフ

RRパッドとRINGバフは、その組み合わせに於いて最大の性能を発揮するように計算されています。まさに、サスペンションのダンパーとスプリングの関係です。吸い付くようなスムーズな操作感と素早い切れ味が自慢です。RRパッド+RINGバフ！新しい作業感覚の第一歩です。

クリヤー本来の光沢を引き出すのが本物のコンパウンド

リアルカット

REALCUT コンパウンド A・B・C

クリヤーの光沢性能は年々進歩しています。最先端のクリヤーを磨く上で重要なこと・・・それは素材を生かすことです。艶を加えるのではなく、光沢を引き出すことが重要です。傷を隠さず磨き切る！これからのコンパウンドの使命なのです。水性タイプで塗膜にもバフにも優しいコンパウンドです。

まずバフのお手入れを完璧に・・・

スーパートルネーダー GT-X

コンパウンドをあこれ試す前に、まずバフのコンディショニングをチェック！特にウールバフのお手入れは大変です。GT-Xエアガンなら、毛足を痛めず完璧なクリーニングが可能で、バフも長持ちします。安定した切れ味と仕上がりの追及はバフのクリーニングが肝心です。

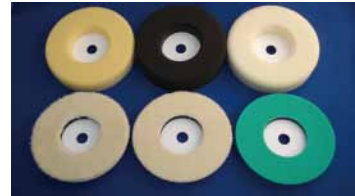
最高の条件で試して頂きたい・・・

だからシステムでお勧めするので

GT ポリッシングセット

RRパッド+RINGバフ+REALCUT、更にコーティング剤やGT-Xエアガンも入ったお得なセットです。(価格の詳細は販売店までお問い合わせ下さい。)

一人でも多くの方にシステムの本当の良さを解って欲しい・・・その為には全ての製品を組み合わせで試して頂きたいのです。その願いを特別価格に込めて提供させて頂きます。



ARタイプ

Aタイプ



株式会社 ジーアンドティー

〒195-0074

東京都町田市山崎町 1427-61

TEL: 042-810-3548 FAX: 042-810-3549